



『傾聴』と『確認』で、より良いコミュニケーション

『子ども』 Dorothy Law Nolte

批判ばかりされた子どもは、非難することをおぼえる。
 殴られて大きくなった子どもは、力に頼ることをおぼえる。
 笑いものにされた子どもは、ものを言わずにいることをおぼえる。
 皮肉にさらされた子どもは、鈍い良心のもちぬしとなる。

しかし、

激励を受けた子どもは、自信をおぼえる。
 寛容に出会った子どもは、忍耐をおぼえる。
 称賛を受けた子どもは、評価することをおぼえる。
 フェアプレーを経験した子どもは、公正をおぼえる。
 友情を知る子どもは、親切をおぼえる。
 安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる。

可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることをおぼえる。

～川上郁夫訳『あなた自身の社会 スウェーデンの中学教科書』1997年、新評論より～

【傾聴】

私が以前働いていた小児病棟で、入院中の子どもたちが話を持ち掛けてくることが多くありました。ゆっくり聴ける時は良いのですが、救急処置やカンファレンスなど業務が立て込み、気持ちが落ち着いておらず、聞く姿勢がとれない時も多くありました。そのような時は『ごめんね、きっと大切な話があると思うのだけど、今、しっかりとお話しを聴くことができないんだよ。沢山話を聞けるようにするから、少し待っててね』と聴く約束を取り、十分な時間を作って聴くことにしていました。約束を守らなかったり、『今忙しいから!』とか『何?また後で!』と強い口調で返してしまうと本心を話してくれなくなってしまいます。自身の状況や感情を理解・管理し、聴く姿勢が取れるようコントロールすることはとても大切なことだと思います。

【確認】

『Aちゃんが話してくれたことは〇〇ということで、××と考えた(思った)、これであっているかな?』『今は〇〇な気持ち、それとも△△な気持ちなのかな?』という具合に理解の一致を確認することで、この行為は子どもの考えや気持ちを理解するためだけではなく“あなたのことをよく知りたいんだよ”というメッセージにもなります。

とはいえ傾聴、確認の実行は“言うが易し、行いは難し”で非常に難しいことです。私自身、日常でトレーニングを重ねていくほかないと感じております。

子どもは、正しく理解されていることでおとなの誠実さを知り、共感されていることを実感します。

コミュニケーションは理解を深め、信頼性を高めるツールです。そのやり方によって関係性を良くも悪くもします。育児や教育場面においても重要な役割を持つコミュニケーションを丁寧に積み重ねていければ、おとなは子どもたちのよい環境因子になれると思います。

うんうん
…と思った
んだねえ～

あのね…

高丘保育所 田中 謙好

6月のご案内 地域女性団体連絡協議会です。